

## 平成23年度第1回さいたま市商業等振興審議会議概要

- 1 開催日時 平成23年10月 7日(金)午前9時30分～午後11時30分
- 2 開催場所 さいたま市役所本庁舎 2階 特別会議室
- 3 出席者名 後藤委員、信楽委員、清宮委員、守屋委員、島田委員、近藤委員  
田中委員、日野委員、大郷委員、矢崎委員、新井委員、染谷委員  
田村委員、森田委員  
事務局職員 岡安経済部長、小島経済部次長、宮原商工振興課長、西村課長補佐  
矢作課長補佐、澤主査、益田主査、松本主任  
区商工担当 加藤大宮区総務課地域商工室長、大内浦和区総務課地域商工室長  
飯山岩槻区総務課観光経済室長
- 4 会議の公開・非公開の別 公開(傍聴人は1人)
- 5 次第
  - (1)さいたま市商業等振興審議会委員委嘱式  
委嘱状交付  
小林副市長挨拶
  - (2)さいたま市商業等振興審議会  
開会  
  
委員及び事務局紹介  
  
委員長・副委員長選出  
委員長：後藤委員、副委員長：伊藤委員  
  
議題  
ア) さいたま市商業等の振興に関する条例及びさいたま市商業振興審議会  
について  
資料1により説明(宮原商工振興課長)  
  
イ) さいたま市の商業について
    - ・さいたま市の商業等の現況(資料2)
    - ・さいたま市の商店街振興事業(資料3)
    - ・平成23年度商店街振興事業・商店街の主な取り組み(資料4)

資料2、3、4により説明（西村課長補佐）

ウ) 意見交換

（委員）

商店会、商店街の組織の問題

- ・大型店の商店会、商店街への加入についてのデータは市にあるのか。
- ・大型店との連携を行政としてやっているのか。

大型店、駅ナカの問題

- ・大型店の商店会、商店街への加入を推進してほしい。
- ・大型店、駅ナカの店舗は、本社の多くが市内ではないため、税金が市に入っていない。
- ・大型店の地域の商店が連携できるように、市でもはたらきかけてほしい。
- ・駅ナカの店舗の商品には魅力がある。

商業地域のマンションの問題

- ・商業地域にマンションを建設する際、店舗をいれるようにしてほしい。
- ・マンションが増えて商店街の連続性がなくなり、事実上商店街として成り立たなくなっている。

商店街活性化キャンペーン事業について

- ・平成22年度実施したプレミアム付き商品券に人気があった。
- ・プレミアム付き商品券実施により、大型店が加入するなどの効果はあったが、多くが大型店に顧客が流れてしまったことが反省材料である。次回は小売店にも流れるようにして、もう一度実施したい。
- ・準備期間が短い。ピーアールが画一的になっている。
- ・商店街それぞれ個性があるので、特徴にあわせてフレキシブルなイベント等をやったほうがよい。

商店街街路灯のLED化について

- ・LED化の補助ありがたい。
- ・LEDに交換するのに2分の1の予算を作らなければならない。
- ・商店街街路灯は防犯等としての役割もあるので、電気料を無料にしてほしい。

商店主ではないので、消費者の立場で話します。

駅ナカのお店、商品は魅力がある。

禁止、規制、取り締まりではなく、魅力があるほうに消費者が行く。

大型店、駅ナカを利用して地元も活性化する、お互いに活性化する連携の仕方考えた方がよい。

大型店が商店会、商店街に入ること何かメリットがあるようにするほうがよい。

敵でなくて一緒にやることメリットとなるようにする。

狭い空間の中でやっているのので、売れる物が限られている。駅ナカとの魅力の差別化をすることで、相乗効果が出るのではないかと。

(事務局)

大型店が地域の商店街に加入することは重要と考えている。

キャンペーンの目的として大型店に加入してもらったケースもある。

大型店の加入データ、具体的に把握していないので、各区と連携して把握するようにする。

大型店と地域の商店街が共存共栄できるようにしていきたい。

浦和駅の駅キナカについては、情報収集していきたい。

商業地域のマンションについての問題については、研究していきたい。

平成22年度に実施したプレミアム付き商品券は、国の財源があった。今回は市単独でやるが、議会で認めていただいた。今後は、財源をみながら進めていきたい。

商店街活性化キャンペーン事業については、未決定の部分もあるので、決定されればピーアールしていきたい。

電気料の無料化については、市も財政が厳しい。意見は承りました。

そ の 他

閉 会